



園長便りひがし

令和8年2月3日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

子どもの心が育つ魔法の言葉かけ

好奇心旺盛な子どもたちは、いろいろとやらかすこともあります。おかしな発言をすることもあります。それを丸ごと受け止めて、励まして、考えさせて背中を押すことが大事だと言われています。子どものやる気を刺激すれば、自らぐんぐん成長するはず。「やりたい」「やってみたい」を内発的動機付けと言います。こうした子どもの「その気」を引き出す声掛けを紹介します。



① 存在を認める言葉

「○○ちゃんがそばにいてくれて、うれしいな」声掛けの基本である存在承認です。そのままのあなたがいい！承認欲求は大人でも持っている本質的なもの。逆に存在を否定されたり無視されたりするのが、子どもには最もつらいと言われています。

② 受容する言葉

「ピーマンは、まだ苦手なんだね。」マイナスを前向きに捉えなおし、ステップを刻んで成長を促しましょう。重要なのは、「まだ」という言葉です。「まだ苦手だけど、いつか食べられるようになる」という語り手の思いが込められています。

③ 素質や才能を信じる言葉

「○○ちゃんなら、きっとできると思うよ！」素質や才能を信じる言葉です。将来の成功を信じてあげる「期待」がピグマリオン効果になります。人は成功を信じて励まされると、潜在意識がその期待に応えようと反応します。

④ 行動を評価する言葉

「早起きができたね。すごい。」行動を評価する言葉です。子どもをよく観察して、ささいなことにもすかさず「認める、褒める、喜ぶ」の反応を使い分けましょう。昨日より今日少しでも変化・成長していたら、それに気づいたことを伝えましょう。子どもはますますその行動を強化していきます。



⑤ 挑戦を評価する言葉

「一人でお着替えがんばったね。」自ら挑戦する気持ちとプロセスを評価します。たとえ、ボタンを掛け違えていても、「よくやったね。」とまずは自分でやろうとしたことを受け入れます。たとえうまくいかなくても、プロセスを評価することでやる気につながります。

⑥ 貢献欲を満たす言葉

「手伝ってくれてありがとう」ありがとう感謝されることは、行動承認です。これは最もうれしいごほうびです。「自分の行動によって誰かの役に立てた」という満足感は、子どもにとって強い喜びとなります。「ありがとう」はキングオブペップトークです。そして、「ありがとう」を言われた子は「ありがとう」を言える子に育つはずです。

⑦ 結果を評価する言葉

「できたねー。よかったねー。」「小さな成功を見逃さず子どもと喜びを分かち合う」これは「結果承認」です。できなかつたことができるようになった時の喜びは、子どもにとって最高の出来事です。それを一緒に喜んで差し上げることは「自己効力感」を育むステップになるはずです。

